

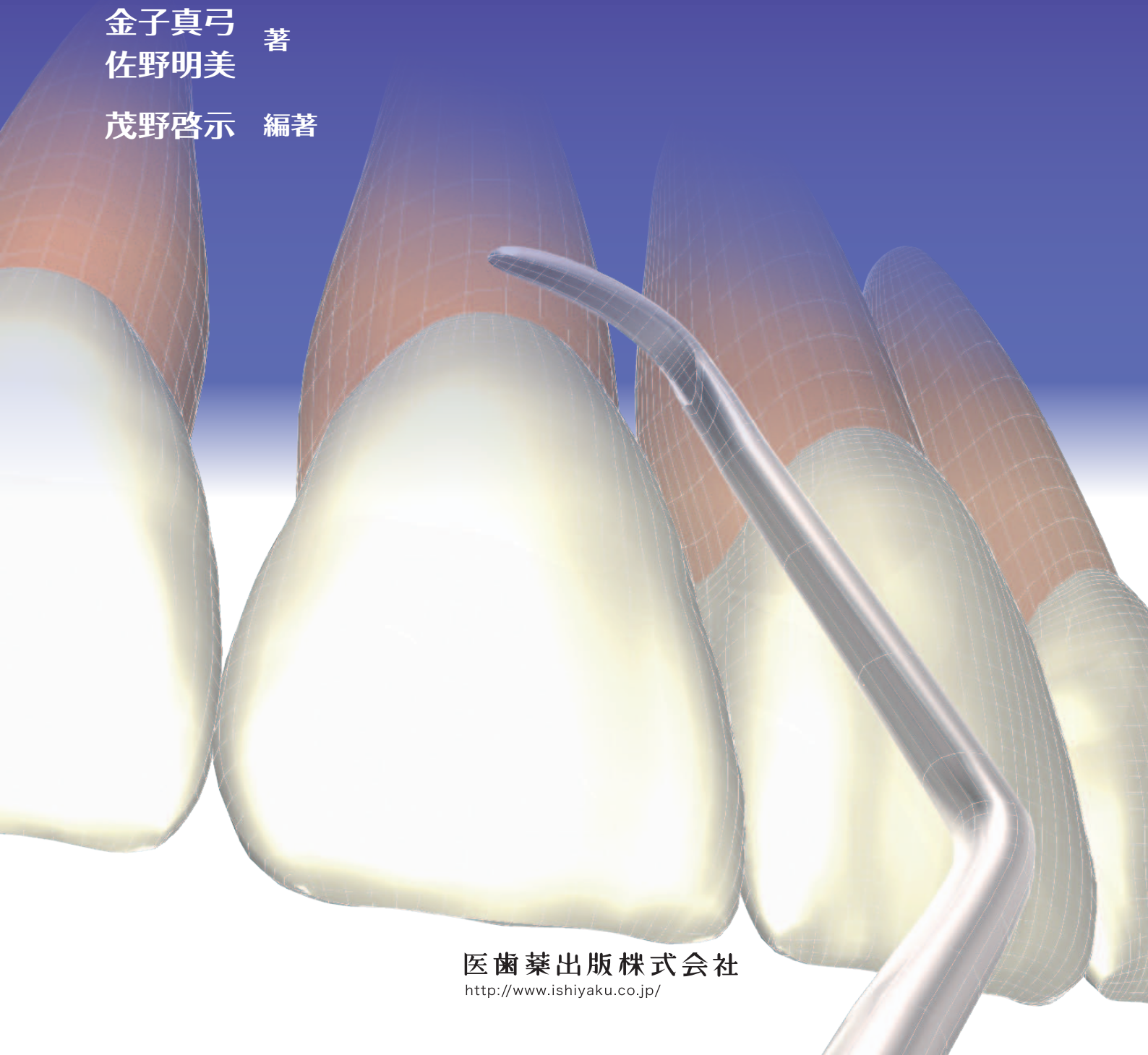
# 一から学ぶ スケーリング・ ルートプレーニング

一歯ずつわかる パーフェクトSRP&メンテナンス

金子真弓 著  
佐野明美

茂野啓示 編著

医歯薬出版株式会社  
<http://www.ishiyaku.co.jp/>



6

上顎左側第一大臼歯

6 頬側 — 術者目線：直視・サイドポジション, フロントポジション・キュレット：近心：Gr. No. 11・遠心：Gr. No. 14

近心

刃部挿入時（歯根遠心隅角部） 頬側面から近心隣接面（①から②）へ刃部を進める。

①から②へかき上げ②から③へ下ろす。③から④へかき上げ、④から⑤へ下ろす。⑤から⑥へかき上げる。

ラストシャンクが歯根面と平行になるようにかき上げる。

6 近心歯根面別角度 直視（頬側からのアプローチ）

①から②へかき上げ頬舌側幅の中央まで刃部を進める。

遠心

刃部挿入時（歯根遠心隅角部） 頬側面から遠心隣接面（①から②）へ刃部を進める。

※右図①→④は刃部の動きの方向と順序を示している。

ラストシャンクが歯根面と平行になるようにかき上げる。

根分岐部

6 遠心歯根面別角度 直視（頬側からのアプローチ）

①から②へかき上げ②から③へ下ろす。③から④へかき上げ、頬舌側幅の中央まで刃部を進める。

6 口蓋側 — 術者目線：直視・サイドポジション, フロントポジション・キュレット：近心：Gr. No. 12・遠心：Gr. No. 13

近心

刃部挿入時（歯根遠心隅角部） 口蓋側面から近心隣接面（①から②）へ刃部を進める。

ラストシャンクが歯根面と平行になるようにかき上げる。

①から②へかき上げ②から③へ下ろす。③から④へかき上げる。

6 近心歯根面別角度 直視（口蓋側からのアプローチ）

①から②へかき上げ頬舌側幅の中央まで刃部を進める。

遠心

刃部挿入時（歯根遠心隅角部） 口蓋側面から遠心隣接面（①から②）へ刃部を進める。

歯根隅角部のキュレットの動き；㊦からハンドルをわずかに回し㊨へ移動。①から②へかき上げる。

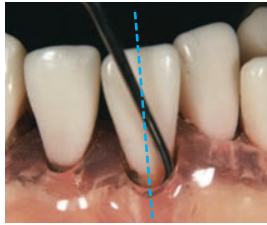
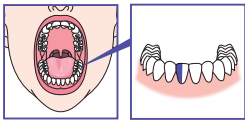
6 遠心歯根面別角度 直視（口蓋側からのアプローチ）

①から②へかき上げ②から③へ下ろす。③から④へかき上げる。頬舌側幅の中央まで刃部を進める。

1

下顎右側中切歯

1 唇側 — 術者視線：直視・フロントポジション・キュレット：Gr. ミニ F. No. 6

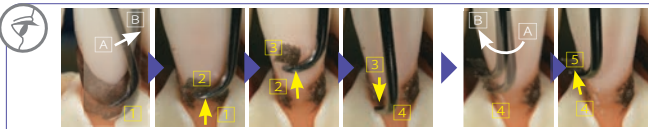


刃部挿入時  
[中央線よりやや右 (近心)]



唇側面から遠心隣接面 (1) から (2) へ刃部を進める。

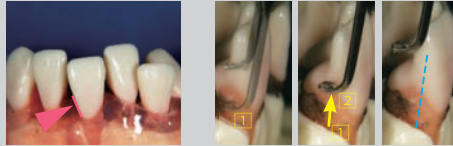
※右図①→⑤は刃部の動きの方  
向と順序を示している。



開始時のキュレットの動き; (A) からハンドルを起して (B) へ移動。

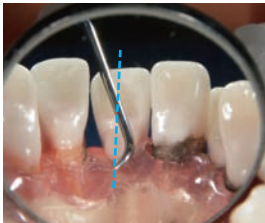
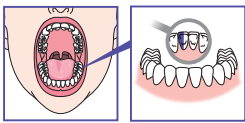
歯根隅角部のキュレットの動き; (A) からハンドルをわずかに回し (B) へ移動。 (4) から (5) へかき上げる。

1 遠心歯根面別角度 直視 (唇側からのアプローチ)

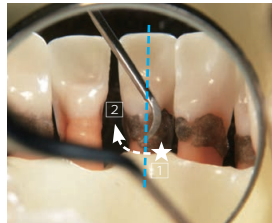


①から②へかき上げ唇舌側幅の中央まで刃部を進める。

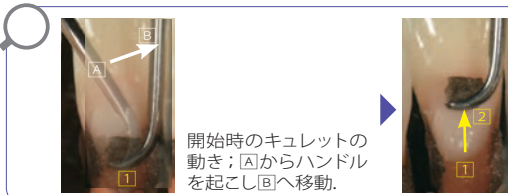
1 舌側 — 術者視線：鏡視・フロントポジション・キュレット：Gr. ミニ F. No. 5



刃部挿入時  
[中央線よりやや右 (近心)]



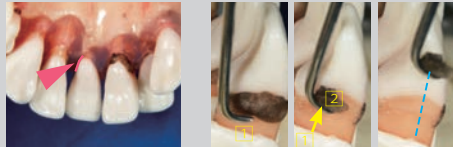
舌側面から遠心隣接面 (1) から (2) へ刃部を進める。



開始時のキュレットの動き; (A) からハンドルを起して (B) へ移動。

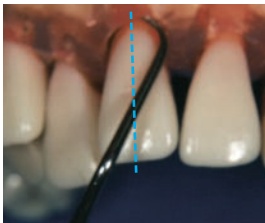
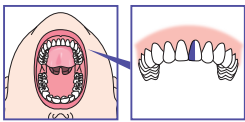
①から②へかき上げる。

1 遠心歯根面別角度 直視 (舌側からのアプローチ)

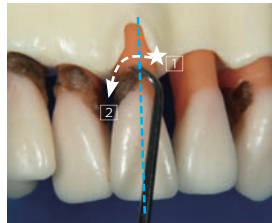


①から②へかき上げ唇舌側幅の中央まで刃部を進める。

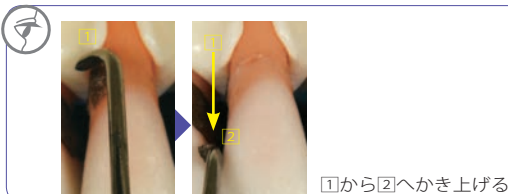
1 唇側 — 術者視線：直視・バックポジション・キュレット：Gr. ミニ F. No. 5



刃部挿入時  
[中央線よりやや右 (遠心)]



唇側面から近心隣接面 (1) から (2) へ刃部を進める。



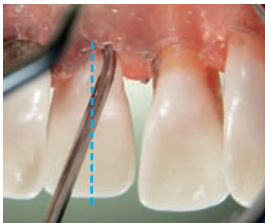
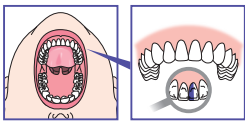
①から②へかき上げる。

1 近心歯根面別角度 直視 (唇側からのアプローチ)

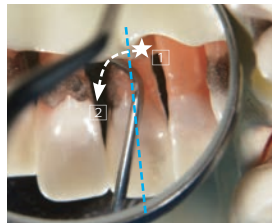


①から②へかき上げ唇舌側幅の中央まで刃部を進める。

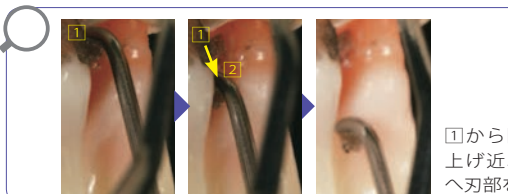
1 舌側 — 術者視線：鏡視・バックポジション・キュレット：Gr. ミニ F. No. 6



刃部挿入時  
[中央線よりやや右 (遠心)]

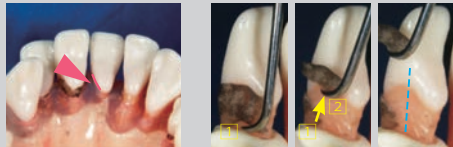


舌側面から近心隣接面 (1) から (2) へ刃部を進める。



①から②へかき上げ近心隣接面へ刃部を進める。

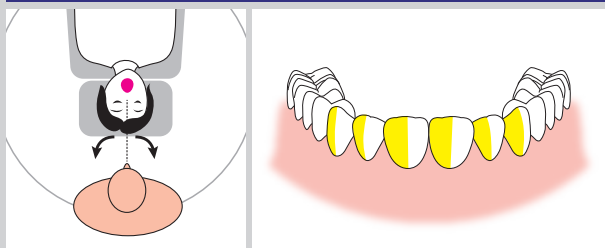
1 近心歯根面別角度 直視 (舌側からのアプローチ)



①から②へかき上げ唇舌側幅の中央まで刃部を進める。

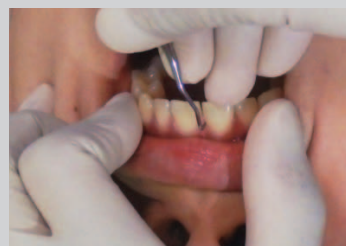
### 3 上顎前歯部唇側への施術詳細②

#### Arrangement



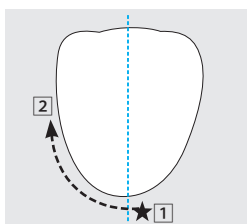
- ・術者：バックポジション
- ・患者頭位：顎を上げ、頭部は正面もしくは施術部が見やすいように左右にやや傾ける。
- ・施術歯面：向かって左側を行う。
- ・使用キュレット：Gr. No. 6, Gr. No. 12, Gr. No. 14.
- ・施術部位：直視

#### Technique



上顎前歯部唇側施術時。  
示指と拇指で上唇を排除。  
固定点：施術歯または施術歯にできるだけ近い歯の切縁にフィンガーレストを置く。

#### Curette Course

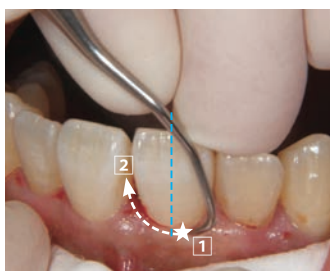


開始位置★は 1] 中央線よりやや右側（遠心側）、唇側面から近心隣接面（1]から2]）へ刃部を進める。

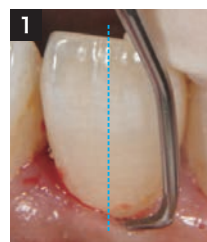
#### 臨床における 1] 唇側施術時



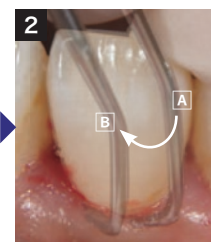
1] 唇側プロービング時。コンタクトエリア直下の測定はプローブに角度をつける。



施術歯と隣在歯の切縁にフィンガーレストを置いている。  
使用キュレット：Gr. No. 12.



1]2 刃部を歯の中央線よりやや右側（遠心側）の歯周ポケットに挿入し、刃部先端 1/3 を歯根面に適合させ、垂直ストロークを開始する。A]からB]へハンドルをわずかに回転させ刃部先端 1/3 を歯面根に適合させ、唇側面から近心隣接面へ向かう。



3]4 常にラストシャンクが歯根面と平行に保たれていることを確認する。



5]6 隣接面では唇舌側幅の半分くらいまでストロークを行い終了する。



#### 1] 唇側面から近心隣接面への施術

使用キュレット：Gr. No. 6



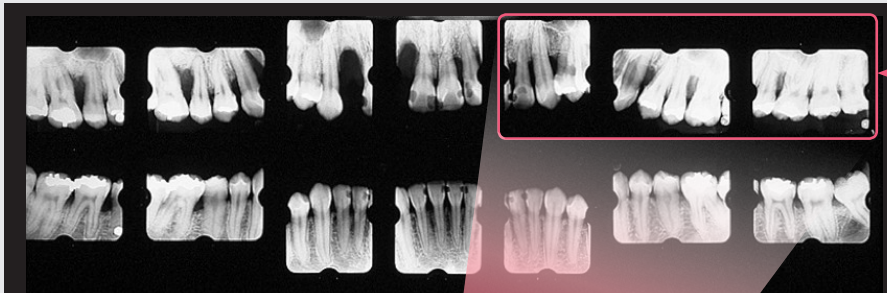
使用キュレット：Gr. No. 14



1] 刃部を歯の中央線からやや右側（遠心側）に挿入した状態。

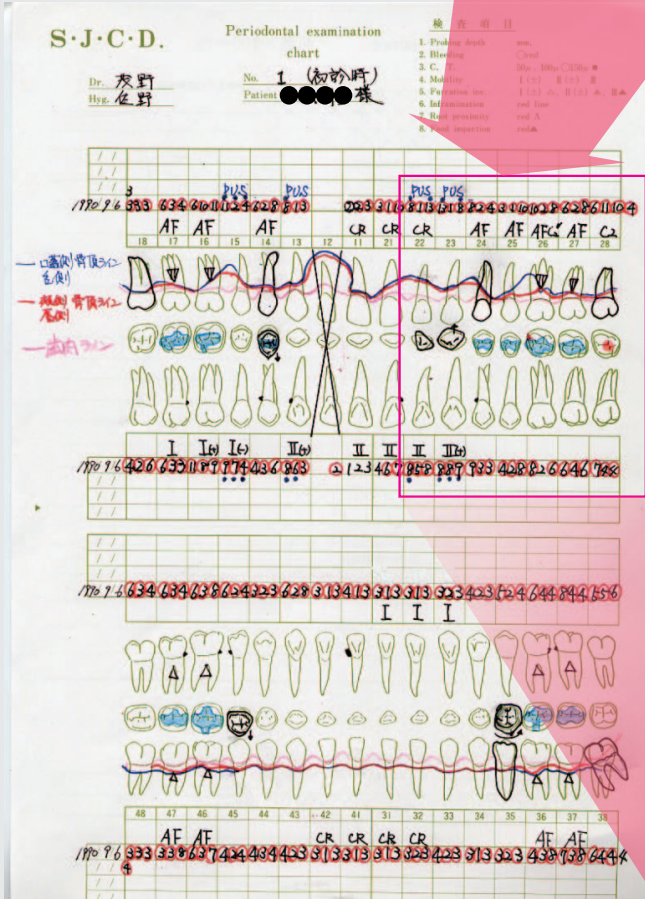
2] ポケット底に達しハンドルをやや起こしストローク開始時の状態（ラストシャンクと施術歯根面を平行に保つ）。

3] 隣接面においてラストシャンクが歯根面と平行になっている状態。



**1**  
各歯のプロビング値を計測する際、必ずデンタルX線写真の10枚法、もしくは14枚法を見ながら歯肉頂-歯槽骨頂-骨欠損底部までの距離の目測を行う。

①特に唇、頬側骨縁と舌側、口蓋側骨縁とを読み取り、②それぞれの連続線をチャートに書き込む。  
③おおよその歯肉頂ラインも書き込む。



**2**  
不適な修復物(特に、マージン不適合や二次う蝕の存在は必ず)を書き込む。  
クラウンマージン部のオーバーハンゲ(引っかかり)があると、プロビング値を正確に測定できないため、これをチャートに図示する。



**4**  
その他、プロビングから得られる情報(歯石の有無、歯根の状態、根分岐部病変の有無など)を書き込む。

**3**  
特に出血、排膿部は歯周ポケット内のどこからか、「点状」か、「歯肉溝全体か」など、量的なことも確認する。必ず歯の全周を探り、深い箇所をポイントアウトする(当院では6点法を用いている)。

根分岐部の状態  
Class I : △,  
Class II : ▲,  
Class III : ▲

歯肉ライン (ピンク)  
口蓋側骨ライン (青)  
頬側骨ライン (赤)

図22 歯周組織診査チャートの作成例